

「羽包み(はくくみ)」

第20号 令和3年12月1日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17

TEL・FAX 0467-58-6260 shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp

〔郵便局での振込みは〕 ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〔銀行からの振込みは〕 ゆうちょ銀行 店名：〇ニ九（ゼロニキュウ）当座 0081277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

人生に責任を持つ

ホーム長 前川 礼彦

人は生きていの中で、様々な出来事に遭遇する。家族の下で生まれ育ち、親からのメッセージを受け、家族や所属する学校などでの人間関係と体験を通し、人格を形成していく。

そして思いもよらない出来事や病気、アクシデントがその後の人生に大きく影響する事もある。「なぜ私が」と自分の人生を恨む事もあるかもしれない。

何らかの理由で、生きる事が辛くなった人の気持ちは、なった人にしか分からない。どうなっても自分自身から逃れることは出来ず、痛みも悲しみも寂しさも全ての感情は自分自身にしか引き受けられない。

しかしそれも自身が作り上げたものだ。自身の受け取りを他者のせいではなく、自分の事として受け止め、それを否定的に捉えるか、もしくは何を見出すかで、人生は見える景色が違ふ。見える景色も真実も、全て自分の中にある。

厳密に言えば、人の気持ちなどその人の中だけにあるもの。そして過去を想起し未来を想像したとしても、意識は今この瞬間の連続体である。お互いの人生の中で、触れ合う時間を通し、交流したとしても、離れば人がどの様に生き、何を感じているかも分からない。会えない人を想うことも、自身の想像でしかない。その点では、人生とは、人とは、何と孤独なものか。

でも人との触れあいは人生に潤いを与えてくれる。出逢う人、お互いの生き方が人生に影響を与えてくれる。人との出逢いで刺激を受け、活力が生まれ、未来に希望が見えてくる。

もしこれから先に、思いもよらない困難や辛いことが訪れたとき、きっとそれは自分の人生で用意されたテーマなのだろう。そしていつしか乗り越える時が来るならば、自身の心がまた一歩成長をした証となり、次への人生のステージに繋がっていく。

生きていなかで、どんな事に遭遇するかは分からない。人生は不可解だ。今まで側に居た人が今はもう居ない。この胸の苦しみや幸せも全部引き受け、それぞれの人生、歩んできた道の中で、自身が人生に独自の意味を見出し、与えられた寿命まで精一杯生きる。その降りかかる全てにおいて、自分の人生に責任を持つ。そう思い、今日を生きる。

この人生のなかで、これからの未来を生きる若者たちに、人生を強く生きていってもらいたい。君たちがこれから生きていく人生を、私は自分の人生を通し、応援していこう。

全ての支援者、関係者の方々、いつもつばさの家を応援して下さい、心から感謝を致します。